

2016年6月3日（金）～4日（土）

甲武信ヶ岳 (2475 m)

～Report by yosimatu～

6月4日（土）快晴

今日は、今回の登山行最高峰の三宝山を経て十文字峠に向かう。シャクナゲが楽しみだ。



4時ごろにはみな起きました。

既に東の空はうっすらと明るくなっていた。

小屋の前庭から日の出を眺めることができた。いつも感動する一瞬だ。



朝食は5時から。

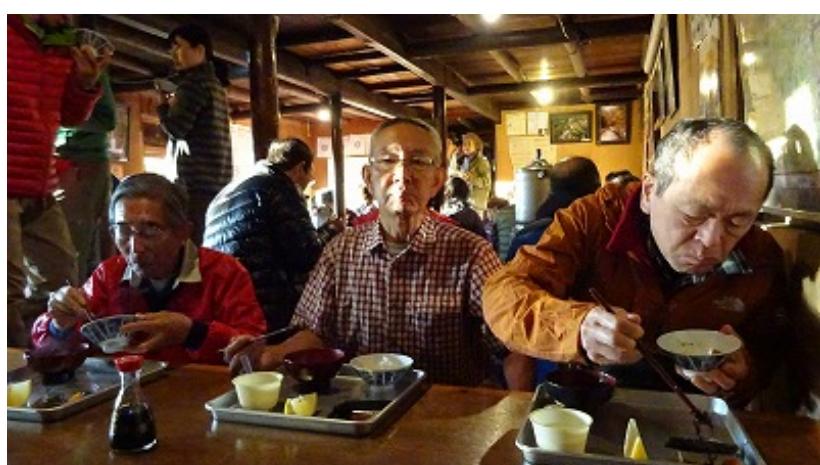
甲武信小屋は全てセルフサービスだ。

気の早い人は15分も前から並んでいる。



少々味気ない朝食ではあったが、今日のエネルギーの源だからしっかり食べた。

一晩熟睡して、熊本さんの脚もすっかり良くなった。



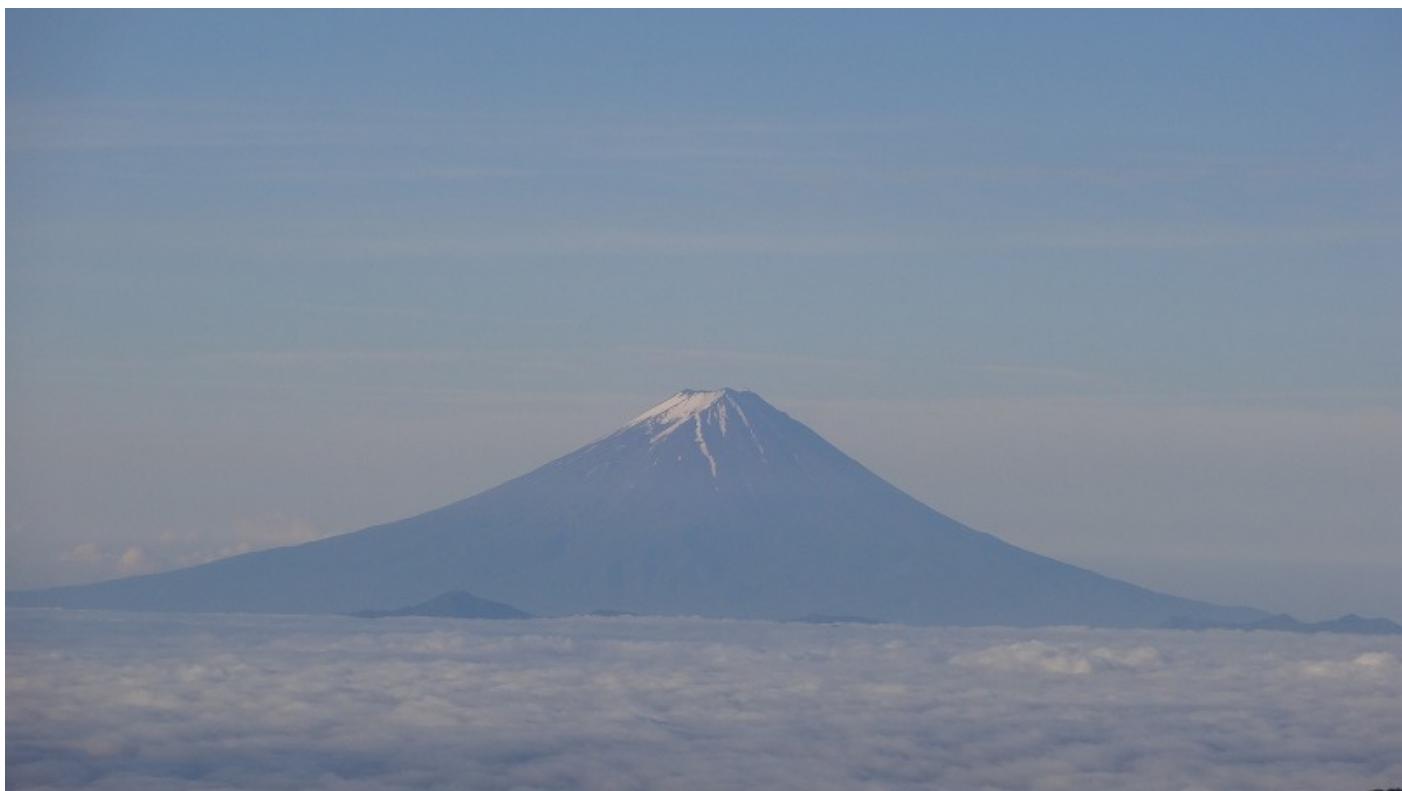


朝日が当たる小屋の前で集合写真を撮つてから、5時半には出発した。

計画よりは1時間半も早い出発となり、全体の計画もその分だけ早めることにした。



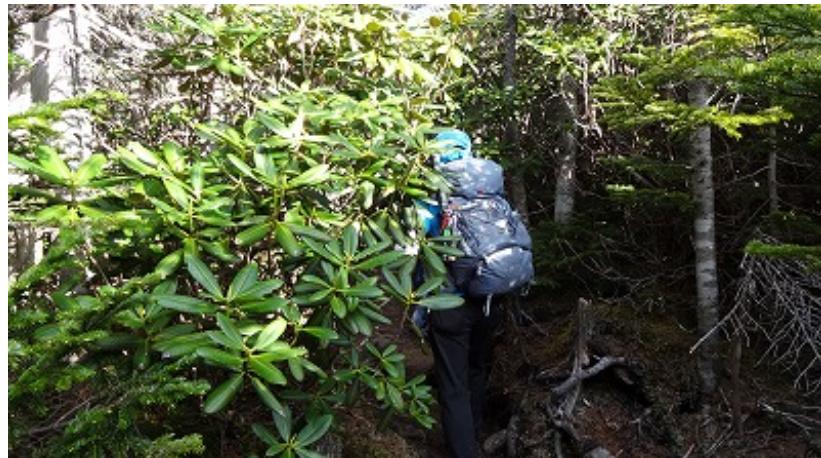
小屋を出てすぐの、樹林の切れ目から富士を眺めることができた。雲海に浮かぶ大きな富士山だ。ここまで立派な富士を見られることは稀かもしれない。



小屋から甲武信ヶ岳山頂までは20分ほどだ。すぐに山頂が見えてきた。



昨日ゆっくりした山頂だから、僅かばかり滞在してすぐに三宝山に向かった。かなり下ってから、もう一度登り返すことになる。三宝山は、今回の登山行での最高峰だ。



三宝山山頂に近づくに従って、登山道の左右にシャクナゲが現れてきた。

まだ花が咲いていないから、ハクサンシャクナゲかもしれない。ハクサンシャクナゲは7月上旬くらいから白い花を咲かすのだそうだ。



三宝山（2484m）に到着。山頂の周りにもハクサンシャクナゲが群生していた。



(三宝山には一等三角点がある)



三宝山を下って、次の通過ポイント「武信白岩山」に向かった。

途中、変わった大岩が出てきて皆がシャッターを切り始めた。標識には、「尻岩」とある。確かに良く眺めると「尻」だ。



「尻岩」から 10 分ほど歩いたところで、ついに待望のシャクナゲの花を見ることが出来た。

6月上旬に咲くこのシャクナゲは、アズマシャクナゲ。ピンク色だが、蕾のころは強い紅色だ。



十文字峠までの登山道はなかなか楽しい。梯子あり、鎖場あり、岩場の上り下りがところどころにあって、飽きることがない。

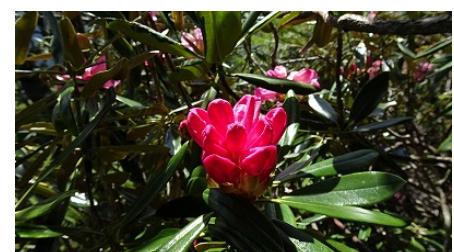




武信白岩山（2270m）は切り立った岩山だった。現在は登頂禁止になっている。白岩山を我々は見上げながら、巻くようにして通り過ぎた。



武信白岩山あたりから大山山頂に向う道は、さながらシャクナゲ街道のようだった。



大山直前で大きな荷物を担いだ甲武信小屋主人「山中徳治」さん（写真左）にお会いした。険しい岩登りの途中で歩みを止めて暫し歓談した。

60歳は過ぎていると思うのだが、それにしても重い荷物を運ぶ姿は鍛えられていて、力強い。



山中さんと分れて程なく、視界が開けた辺りに出た。大山までもう一息のところだ。



大山（2225m）到着

ここを過ぎれば、後はほとんど下る一方となる。

大山は岩山だ。下りはクサリ場などがあるって、この登山道もそれなりにスリルがあって面白い。





下山道のシャクナゲを楽しみながら下ってきた。

9時30分、予定より2時間近く早い時刻に十文字小屋に到着した。



小屋の周辺はアズマシャクナゲの密生地だ。環境保護のために張ってある網が少々興ざめでも無いではなかったが、皆で集合写真を撮った。

アズマシャクナゲは少々花の最盛期を過ぎているようだ。しかしシャクナゲ以外にも様々な花が咲いていて飽きることがない。





十文字峠では大休止をとった。

大分スケジュールが早まったので、川上観光タクシーと連絡を取って、毛木平駐車場への迎えを早めてもらった。昨日同乗した女性二人も、同一行動をしたいとのことであった。

十文字峠からの下りは比較的なだらかだ。千曲川にかかる橋を渡ると、毛木平駐車場は目と鼻の先だ。



毛木平駐車場に到着（11時30分）

昨日とは打って変わって駐車場は満杯で、しかも道路わきまで駐車の車が一杯だ。



レンゲツツジをバックに一枚



ジャンボタクシーに乗って、村営「ヘルシーの湯」へ。同乗の2女性も、結局我々と一緒に湯に入ることになった。



湯上りの一杯。遅めの昼食もとった。列車を早めた都合で少々慌ただしい食事になった。



迎のジャンボタクシーで信濃川上駅へ。  
2人の女性は結局帰りの列車まで御一緒することになった。



(川上駅の小さな駅舎)

小海線連車内で、飲み足りないお酒をグビグビ。

二人の女性に熊本さんの名刺をお渡しして、  
クマさん会HPのPRまでしました。





佐久平駅から乗りこむ帰りの北陸新幹線は、  
「あさま 642号」

熊本さんは佐久平駅改札で、東京駅で紛失した定期入れの確認をしてもらった。

笑顔でお察しの通り、届けられているそうだ。

乗り換え時間が少なかった所為で、酒を買う余裕なし。新幹線内では珍しく禁酒だ。

すかさず、堀さんがみんなに提案・・・

「熊本さんの定期入れが戻った。実に喜ばしい。その中には1万円が入っていた。戻ってこなかつたことを思えば大ラッキーの拾いものだ。東京に着いたらその金で打ち上げをするのは如何。」

反対意見なく、堀提案は受理された。

大宮駅で下車予定であった雄さんは、さすがに東京駅まで連れられて行つてはたまらないと、寂しく先に下車。

団々しい堀さん、根岸さん、吉松は、熊本さんの後について東京駅舎内の酒坊「日本盛」(東京駅一番街ごちそうプラザ)で打ち上げの一献。13180円也。熊本さん、ご馳走様でした！！

\*なお、定期入れに入っていたはずの1万円が戻ってきたかどうかは、熊本さんに確認していない。下手に聞いた時の結果が恐ろしい。



甲武信ヶ岳から十文字峠に向かう稜線で沢山のシャクナゲを楽しむことができました。最もシャクナゲが密生している十文字小屋周辺は、すでに花の盛りが過ぎていましたが、他の可憐な花もたくさん見られて満足でした。クマさん会未踏の百名山が28座ありましたが、今回甲武信ヶ岳に登頂することができて1座減りました。めでたし！めでたし！